

JA全農北日本くみあい飼料株式会社 食鳥事業部たかのす事業所
秋田比内地鶏加工センター 開所式



10月1日(木) ネットワーク生かし販路拡大

JA全農北日本くみあい飼料株式会社
秋田比内地鶏加工センター開所式



10月1日、北秋田市合川地区川井にある秋田比内地鶏加工センターで開所式が行われました。開所式には、北秋田市市長をはじめJA秋田中央会や、地元生産者、同センターの関係者約70人が出席し、開所を記念してテープカットが行われました。

秋田比内地鶏加工センターは、平成15年に「比内地鶏製品製造施設」として比内地鶏の加工を行うために設置されましたが、今年6月に開いた総代会において、経営基盤の強化やさらなる比内地鶏の消費拡大を狙いに、東北6県で家畜用飼料の製造販売や牛、豚、鶏の農場運営を行う「JA全農北日本くみあい飼料株式会社」へ経営委託すること

が決定しました。今後は、地元農家が生産した比内地鶏をくみあい飼料が当JAを通じて購入し、精肉などに加工。県内はもちろん、首都圏の飲食店や百貨店、スーパー、問屋など約300社に販売します。

JA全農北日本くみあい飼料株式会社の羽田仁一社長は「農業協同組合の一員として、生産者の皆さんと共に比内地鶏事業を後世に伝えていけるよう頑張っていきたい」とあいさつ。また、当JA小笠原組合長は「コロナの終息と共により需要が回復することを期待している。JAも引き続き消費拡大に向けて比内地鶏の振興と生産者の経営安定を支援していきたい」と祝辞を述べました。

式典ではこのほか、テープカットや辞令交付、記念品贈呈が行われ、職員を代表し同センターの高村丈治センター長から「日本三大地鶏として全国に名を馳せている比内地鶏の事業に携われることに大きな誇りを感じる。職員一同心機一転、切磋琢磨を惜しまず、事業の発展に尽力して参ります」と力強い決意表明が述べられました。

秋田比内地鶏加工センター概要
名称：JA全農北日本くみあい飼料 食鳥事業部 たかのす事業所 秋田比内地鶏加工センター
場所：秋田県北秋田市川井字滝沢72
従業員数：約50名

主な施設：食鳥処理棟（比内地鶏生鳥を解体し、精肉や串物を製造します）、デリカ加工棟（スープ類や、きりたんぼ鍋セット等を製造します）、保管棟（製品や資材を保管するほか、きりたんぼ製造を行います）

主な業務：比内地鶏生鳥の買い取り、解体、精肉加工、比内地鶏関連製品の販売
主な製品：比内地鶏各種精肉、串物、地鶏スープ、炊き込みご飯の素、きりたんぼ単品、きりたんぼ鍋セット、スモークほか加工品

JA全農北日本くみあい飼料概要
本社所在地：宮城県仙台市宮城野区宮城野1-12-1
株主：全国農業協同組合連合会
採算開始：昭和43年2月1日
従業員数：約330名
主な拠点：東北6県に本社、支店

(2)、営業所(7)、飼料工場(2)、直営農場(肉牛肥育1、養豚3、採卵養鶏1)、比内地鶏加工
主な業務：配合飼料の製造・販売、畜産物の生産・販売・加工